

## 第4分科会 テーマ

### ぶっつけ自主シンポジウム「保育における母性・父性」

#### ・母性と父性の捉え方

母性：女性の持つ母親としての自分の子供を守り育てようという気持ち

父性：父親としての性質

#### ・周りからの男性保育士に求めるものとして

男性の特徴を活かして体を使ったダイナミックな活動や遊び、女性とは異なった男性ならではの視点での子どもとの関わりや父親がいない子どもへの父性の役割を期待している。

#### ・男性保育者の視点では

男性的役割も女性的役割を超えた男性保育士。

だんだんと男女関係なしに性別を超えて保育をしていく。

#### ・保育者の離職について

保育者として働いている人のうち（女性も含め）約2割が今後保育士を辞めたいと回答した。理由として、

- ・給料が安い
- ・仕事量が多い
- ・労働時間が長い

中でも20代の特徴は、職場の人間関係・職業適性に対する不安・保護者対応などがある。

男性はというと女性と比べて、割合が高く（24、2%）給料が安いと回答し離職率が高い。

#### ・早期離職者のプロセス（5年以内）

- ・リアリティギャップを感じる

経済的・書類の多さ・自分の時間・ピアノ技術・リーダーの経験・仕事量の増加

- ・上司による継続的プレッシャーなど…。

※男性＝力仕事という流れの中、それをやりがいだと仕事を継続していく人もいれば力仕事のみしか自分の役割がないと存在意義を見出せなく、離職してしまう。

まとめ

男性は、女性のコミュニティーの中では少数で弾性という括りが自分自身の動きを制限している所もあるのではないかと、今一度私たち自身が男性という言葉の意味の問い直しをすることが必要だろう。自分の立場の向上のためにも基盤となる保育をしっかりとし、その上で、自分のオリジナリティーを保育に取り入れていきたいとします。

澤口先生のコメント

男性保育士のなかには、女性ばかりの職場でとまどいながら働いている人も多いということを知りました。

その歪みは、本来の性別に基づく違いだけでなく、社会的に生み出された「男らしさ、女らしさ」という物差しによっても、生じているのだと思います。

男と女は、基本的に異なるものなので、同性同士なら当たり前に行っていることでも、異性が混じったら慎むべき事柄は、男側にも女側にも、少しずつあるのではないのでしょうか。